発行月：平成 29 年 10 月　家族新聞　第 520 号

環境教育「まず、今できることから」

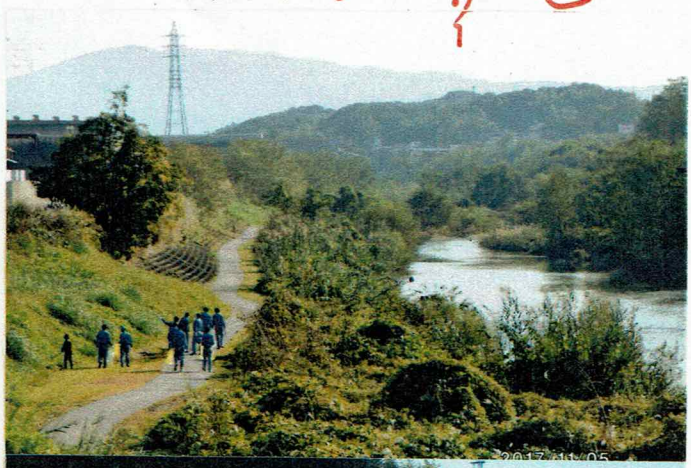
歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
編集者：代表幹事　髙橋賢一
連絡先：市民活動支援センター
尾張旭市渋川町三丁目5番地7
（渋川福祉センター内）
TEL 0561-51-2878

平成二十九年十一月五日(日)
第十二回
矢田川一斉クリーン大作戦
参加者 95名

矢田川も非常にきれいになった。口笛吹きながらリズムにのって協力し会った結果です。「まちに川があることが大きな価値です。人と自然、歴史が風に包まれて静かに生きる、空間は都会に近く住みよい「まちの一つであることは間違いない。

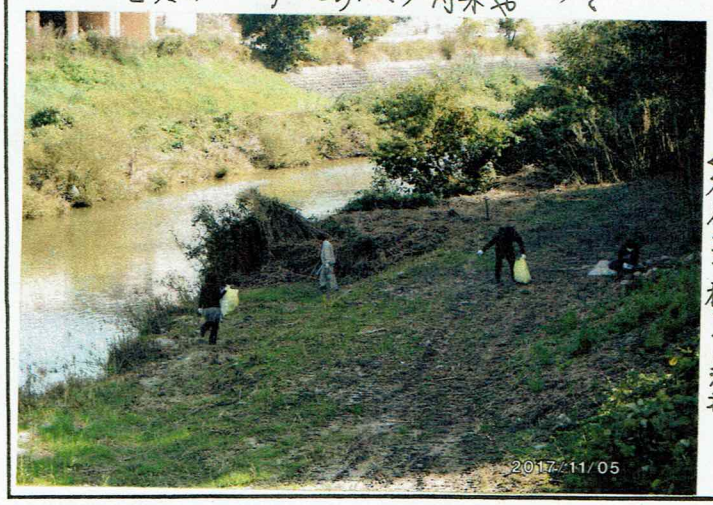
▲矢田川左岸裏道もポイ捨減少にはなったがけっこう



高度経済成長の「夏」が去って秋が訪れ、あちこちに冬枯れの気配が漂いはじめていた時代の日本人の語の蔵密な、味わいある心の歌だった。

▶アダプト方式で一部の集合写真。川が養子。

歌は時代とのキャッチボール最近の歌謡曲の歌詞はちょっとおかしいはっきりいって歌詞と呼べるようなしろものではない。阿久悠の詞は大変わかりやすい。しかも美しい。言葉たちがそれぞれ河を得ています。てあるべき位置にきちんと納まっているように感じられる。だから、私たち張は一番の出だしさえ覚えておけばあとはメロディーに乗って自然に歌詞が思い出すことができる。たとえば石川さゆり高のうたう「津軽海峡冬景色」の歌詞のなかに、昭和という時代の冬景色が豊かな情感をこめてうたいこまれている。



◀左岸宮下橋下での清掃。

▶右岸